

訪問看護出向事業受け入れ 出向先の立場から報告

訪問看護ステーションむかいしま

管理者 池田 絵美

2024年3月9日

訪問看護ステーションむかいしま 特徴



▶スタッフ

看護師 9名 理学療法士 3名 作業療法士 1名 事務 2名

▶利用者数 約130名

▶月訪問回数 930-1000件

▶指示医療機関数

指示書を受けている医療機関：32

医師数：53人



出向事業受け入れ準備

ご利用者様・介護者様へのお願い

彼岸となりましたが、暑い日が続いていますが、体調にお変わりありませんか？

最近では、インフルエンザA型が流行っているという報道もあります。また、新型コロナウイルス感染症の感染も終息までには至っておりません。皆様にはマスクの着用・手洗いの励行を引き続きお願いしたいと思っております。

訪問日に体調に変化や発熱（体温 37.5℃以上）やご家族の感染症がある場合は、ステーションにお知らせいただきますようお願い申し上げます。

そして、当訪問看護ステーションむかいしまでは、10月から12月の期間市民病院の看護師が研修・実務にあたる派遣事業を実施する事となりました。市民病院の看護師の訪問を希望されない方は、スタッフにお申し出ください。

訪問看護ステーションむかいしま

管理者 池田 絵美



- ★受け入れ期間(R5年10～12月)
 - ▶ スタッフへの説明
 - ▶ 利用者さん、介護者さんへのお知らせ
- 訪問受け入れの可否確認
- ▶ プリセプターの選定

出向開始～1か月目（R5年10月）

実施計画

- オリエンテーション
- 訪問看護 同行訪問
- カンファレンス見学
- 居宅介護支援事業所の見学・研修
- 地域活動について学ぶ

実施結果

- ▶ オリエンテーション10/2
- ▶ 訪問看護 同行訪問(3-4件/日)
- ▶ カンファレンスの見学
 - 土本医院との在宅カンファレンス見学10/4
 - 退院前カンファレンス同行・在宅指導見学10/3
 - リハビリスタッフカンファレンス見学10/6
- ▶ 居宅介護支援事業所(しおさい)研修
- ▶ 地域活動 同行・見学10/16.17

1～2か月目

実施計画

- 要支援者の単独訪問ができる
- 要介護度の利用者同行訪問
- カンファレンスでの発言
- 訪問看護の計画・報告書作成
- 地域介護サービスの理解深め

実施結果

- ▶ 要支援者の単独訪問実施
- ▶ カンファレンスでの発言ややすくなめ。
- ▶ 3名の報告書作成
- ▶ 訪問入浴・デイサービスの見学
→療養生活の環境把握に繋がる
- ▶ 緩和ケア入院中の外泊支援のためのカンファレンス同行・見学

2～3か月目

実施計画

- 単独訪問できる
- 利用者の計画立案・実施
- スタッフとしてカンファレンス発言
- 自立支援型地域ケア会議参加

実施結果

- ▶ 要支援・要介護者に単独訪問実施
- ▶ 利用者さんの計画書・報告書作成、
日々の記録記載
- ▶ 訪問時の共有内容をカンファレンスで報告
- ▶ 自立支援型地域ケア会議聴講
- ▶ 看護学校(地域・在宅看護方法論)での実技
演習指導側で参加

訪問件数

月	同行(件)	単独(件)
10月	67	0
11月	60	6
12月	47	14
合計	174件	20件



1か月目の振り返り➡勉強会で報告

月1回のスタッフ勉強会を実施

- 出向業務の1か月目の実施報告実施
(看護協会、尾道市民病院、当ステーション管理者)



◎ 11/24勉強会を利用し報告会実施

- 不安に対する助言や指導方法再確認
- やりがいある仕事→スタッフのモチベーション向上



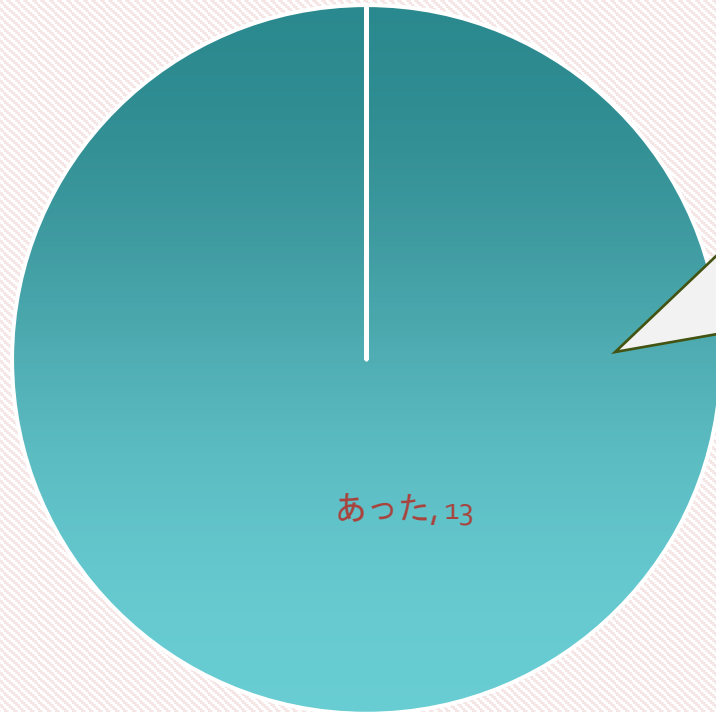
出向業務を終えてスタッフにアンケート実施

アンケート対象者：スタッフ13名(Ns9名、PT・OT4名)

アンケート内容

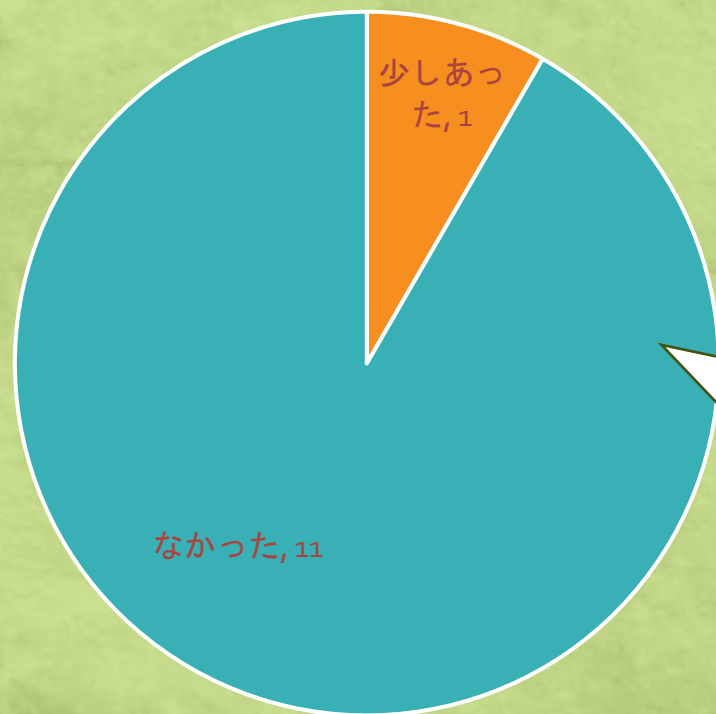
- ①出向業務を受け入れて、自分たちに影響があったか。
- ②出向業務の受け入れによって業務に支障があったか。
- ③同行した利用者さんや介護者さんの反応はどう感じたか。

① 出向業務を受け入れて自分たちに影響があったか



- ・ 在宅の事を把握してもらい連携をより深めていく大切さを認識した。
- ・ 病院と在宅での状況の違いやケア方法策も知る事ができ自分自身勉強になり学びを深めることつができた。
- ・ 私たちが病院側に何を連携しなければいけないのか考える機会になった
- ・ 訪問や地域ケアに同行することで違った視点での看護・介護に関する知識習得できた。
- ・ 訪問看護のやりがいを再認識できた。
- ・ 病院での在宅移行の経過や対応を聞く事が出来た。
- ・ 退院時の指導内容について話げできた

② 出向業務の受け入れによって業務に支障があったか

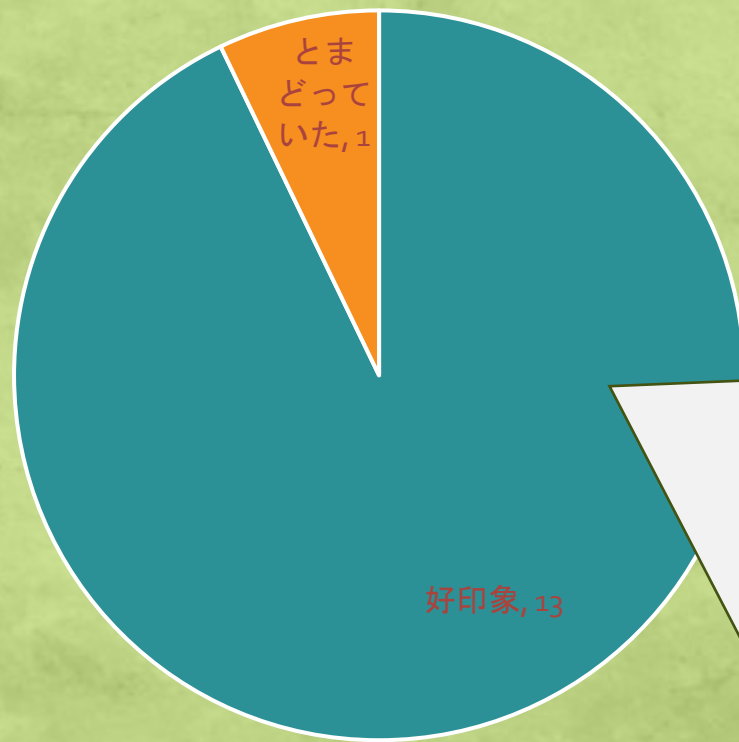


- ・ ケアに対して基礎的な事を再確認される場で学ばれていた。

(少しあった)

- ・ 在宅という場のため多少、準備にとまどいがあったように感じた

③同行した利用者さんや介護者さんの反応は どう感じたか。



- ・ 事前に訪問案内があった為、良かった。
- ・ 初回訪問は気を遣われていたが続けて訪問することによって会話を楽しまれていた。
- ・ 病院所属看護師という点で初めは戸惑っていたが研修終了後に当時の話をされる利用者さんもいた。
- ・ 介護者が積極的に介護や医療機器を説明したり、見せて下さる場面があった。
- ・ 研修期間が終わりに近づく頃には「寂しい」「このまま訪問看護したらいいのに」などの言葉が聞かれていた。

まとめ

出向の成果

- ・スタッフのもつ在宅療養の知識や技術の伝達や自己検証となった。
- ・在宅看護に必要な知識・技術の再確認
- ・自分たちが行っているケアの問題点など他の方向性があることの気づきは大切な経験。
- ・観察や情報から、いかに支援計画や実施に活かすアセスメントが重要と再認識
- ・退院後の在宅療養生活を知り、退院後の生活を見据えた退院指導や退院調整に活かしてもらいたい

まとめ

★出向の課題

- ・出向者の単独訪問に関して、スタッフ間での情報共有不足により不安が残存
- ・病院とは違い、観察や情報収集、ケア内容や援助を単独で実施する難しさ
- ・プリセプターと選定したが、日々の同行者が異なるため支援不足

★出向業務研修は

出向者、出向受け入れ側にとって学びの多い事業

研修や学びの機会を与えてくださった看護協会様、尾道市民病院様に深く感謝いたします。

ご清聴ありがとうございました。

